

代理店の価値向上、業界の信頼回復へ



(損保版)

第1～4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区朝本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2420円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2025



東京代協(廣瀬城児会長)は2月13日、新宿区の京王プラザホテルで創立80周年記念感謝の会を開催した。会は廣瀬会長の挨拶で幕を開け、次いで日本代協の小田島綾子会長と損保協会の城田宏明協会長が祝辞を述べた。また、当日は損害保険トータルプランナー記念品授与式も開催。東京代協では昨年、72名がトータルプランナーの新規認定を取得した。このうちの20名が授与式に出席し、廣瀬会長から記念品が贈呈された。

保険を選ぶ前に代理店を選ぶ

昨年72名がトータルプランナー新規認定

東京代協 創立80周年記念感謝の会を開催

冒頭で挨拶した廣瀬会長は、創立80年を迎えたことへの所感として、「1943年12月8日に正会員数77名で誕生した当会は現在、849名の正会員が所属する組織に成長し、昨年度には創立80年を迎えた。『存続の』とあり、保険業界は大きな転換点を迎えており、まさに業界の体質、そしてあり方を変えていかなければならず、今年はその再スタートの年となる。私たち会員代理店が、現状維持ではなく新たな高みに向けて取り組むことが、代理店がお客様から選ばれる道であり、東



廣瀬東京代協協会長



小田島日本代協協会長



城田損保協会協会長

「今年も東京代協では、日本代協や損保協会をはじめ関係先と協力しながら募集人教育、事業や代理店の価値向上のための取組みに加え、経営や募集人の資質向上に関するセミナーなどを進めていく。そして何れも、会員同士が集まり情報交換をするなどして切磋琢磨していく。代理店活動は経営に有効な情報を得られる、日々の営業活動に生かせる、そして自信を深められるとい

った声が出るように努めていく考えだ」と述べた。

次いで挨拶した小田島会長は創立80年の祝辞を述べ、「東京代協の80年の歴史のなかで、現会長である廣瀬会長のバトン

はこれまでの12人の会長から引き継がれたものだ。時代の変化、そしてその先を捉え、損害保険

の仕組みや代理店のため

の制度、職業賠償共済の創設、消費者の声を集める定期的な懇談会の開催

などの重要な取組みを長年に行ってきた。こうした取組みを支える組織の厚さや活動の幅広さ、若手会員のクリエイ

ティブな企画やいきいきとした取組みはよく存じているところだ」と話すなど、東京代協の取組みが全国の代協をけん引する役割を果たしていることを称えた。

また、昨今の損保業界の一連の不祥事について

も言及した小田島会長は、「東京代協は、消費者に支持される代協を目指すことをテーマに掲げている。昨今の業界を震撼させた問題は、これまでも守ってきたお客様からの尊い信用を傷つけ、会

員の皆様も風評被害にあうなど悔しい思いをしたことだろう」と同じ代理店として胸の内をおも

った。また、昨今の損保業界の一連の不祥事について

も言及した小田島会長は、「東京代協は、消費者に支持される代協を目指すことをテーマに掲げている。昨今の業界を震撼させた問題は、これまでも守ってきたお客様からの尊い信用を傷つけ、会

員の皆様も風評被害にあうなど悔しい思いをしたことだろう」と同じ代理店として胸の内をおも

ばかった。そのうえで今後の代理店経営に必要なこととして、「予期せぬリスクが多い世の中で、安心や安全を求めるお客様の要望を引き出し、正しい保険を普及させるために代理店だからできることを、テクノロジーや価値観の変化も味方につけながら進めていくとき

がきているのではないだろうか。東京代協の100年、そしてその先の未来を切り開く新たな取組みを期待している」と述べた。

損害協会の城田協会長は、損害保険トータルプランナーの新規認定取得者に向けて、「損害保険

トータルプランナーは、損保協会が認定する最高の募集人資格だ。日々、代理店業務に従事しながら、長期にわたり研鑽を積み、見事に合格した皆様の努力に敬意を表したい」と称えるとともに、「トータルプランナーの輩出や認定取得者の専門知識やスキル習得に向けた取組みは、損害保険の募集品質を大きく向上させるものだ。合格した皆様には、募集人のフロンティアとしてぜひ、業界をリードしていただきたい」と一層の活躍を求めた。

挨拶の最後は、「損害保険業界は、偶発的な事故によって生じた損害に対して保険金を支払うことで、安心・安全な社会の実現に貢献してきた。今後も安心と安全を地域の隅々までお届けしていくためには、お客様にとって最も身近な存在である代理店の皆様のご協力が必要不可欠だ。これからは損害保険が、地域社会や人々の暮らしや新たな一歩を支える存在であるために、今後も皆様と力を合わせながら取り組んでいきたい」と呼びかけた。

引き続き行われた、損害保険トータルプランナー記念品授与式では、当日出席した20名の新規認

定取得者に対して、廣瀬会長が記念品を贈呈するなどして、会場全体で祝した。

新規認定取得者を代表して挨拶した水谷彰伸氏(株式会社山中保険事務所)は、「現場では代理店や募集人に対するお客様からの信頼をひしひしと感している。この期待に応えるためには自己研鑽がますます必要になってくると思う。今回の認定取得を研鑽の新たなスタートと捉え、その研鑽の成果をお客様にフィードバックしていきけるように努めていきたい」と述べた。

未来を切り開く

新たな取組みを期待